

令和元年度全国剣道指導者研修会（北信越ブロック）



軽米講師による「剣道に必要な動きづくり」

令和元年度全国剣道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、後援＝スポーツ庁、石川県教育委員会、石川県剣道連盟、主管＝石川県学校剣道連盟）は10月19～20日、石川県立武道館（石川県金沢市）で講師9名、参加者85名が集まって行われた。

本事業は全国9ブロックのうち、毎年5か所で実施されており、今回が今年度2回目となる開催である。

■1日目（10月19日）

開講式に続いて、柴田一浩講師が『中学校保健体育における武道（剣道）の学習について』と題して講義を行った。球技と武道が選択できる3年次において武道を選択させるためには、いかに1、2年次で楽しい授業ができるかが重要であると述べた。

続いて、有田祐二講師による安全指導についての講義では、用具の管理について剣道具、竹刀などの確認するポイントを示した。

次に、花澤博夫講師が『体罰・暴力によらない指導』について講義。最近の体罰事例を紹介しながら、「褒める指導を心がけることが大切であり、相

手のことを考え、具体的に褒めることで子どもたちの良さを引き出してほしい」と述べた。

その後、実践例発表を中井秀人^{ほうだつしみず}宝達志水^{ほう}町立宝達^{たつ}中学校教諭が行った。石川県における武道授業の実施率は、柔道が85%、剣道は15%となっている。また、剣道部員も10年前と比較すると半減しており、剣道人口の減少に危機感を抱き、剣道に初めて出会う生徒に「またやってみよう」と思ってくれるような授業づくりに取り組むため、過去に本研修会に参加し、「新聞紙切り」や「パートナー探し」などの指導法を取り入れてきた。また、竹刀^{つが}の柄と、ものうちにテープを張り、握る位置、打突部位が生徒にわかりやすくなる工夫もしている。

さらに、前任校での取組として、小学校6年生を対象とした剣道の出前授業を行ったところ、小学生の反応もよく、次年度の中学校剣道部には初心者が約20名入部したことも紹介した。また、外部指導者を取り入れた指導例として、地元の剣道連盟から10名の有段者を招き、元立ちとして生徒の打突を受けたり、外部指導者同士の稽古を見せたりすることで、生徒に本物の剣道を感じてもらったところ、生徒から大変好評であったと報告した。

午後は軽米満世講師が「剣道の歴史と特性」を講義し、山田博子講師が「体ほぐしの運動」を行った。楽しむだけでなく、剣道につながる動きであることを意識しながら行うことの重要性が強調された。続いて、有田講師が新聞紙切り、新聞球打ち、ボール打ちが実践された。

さらに、軽米講師による「剣道に必要な動きづくり」が行われ、すり足や踏み込み足の練習では、ウォーミングアップにもなるため、運動量の確保にもなると説明があった。

次に、「木刀による剣道基本技稽古法」に移り、網代忠宏講師が礼法を指導。その後、神崎浩講師が木刀の扱い方、名称、間合などとともに、木刀による剣道基本技稽古法を指導した。授業で教えるときは打ち方、打たせ方の両方を別々に指導する必要があると述べた。

班別に分かれて、木刀基本の課題克服のための段階的練習が討議され、引き続き剣道授業の現状と課題について研究協議を行い、1日目を終えた。

■2日目（10月20日）

竹刀による授業例が展開され、はじめに花澤講師が竹刀の名称、握り方、構え体さばき神崎講師が打ち方、打たせ方、岩脇司講師より段階的な指導の解説が行われた。

続いて、佐藤義則講師による「リズム剣道」の紹介があり、音楽に合わせて打突練習を行った。

その後、有田講師が剣道具の着装を指導し、一斉指導で説明した後は、ペアで付け合うことで助け合いにつながると説明。また、授業のはじめの

段階から胴と垂をつけ、慣れさせることが大事であると述べた。

次に、神崎講師より基本となる技の段階的な指導について、実技を交えて解説が行われた。痛い打ちを防ぐために、段階的に指導することで、剣道嫌いを減らすことにつながると説明した。

続いて、山田講師がごく簡単な試合として「気剣体の一致」を意識した判定試合を行った。5人1組になり、3人の審判がそれぞれ気・剣・体の視点を意識して見ることで判定をわかりやすくしている。審判の仕方を明確にし、一本になる技を身に付けるのが目的であると述べた。

午後は、佐藤講師が応じ技（面抜き胴）を段階的に指導し、軽米講師が面抜き胴を使ったごく簡単な試合を紹介した。その後、岩脇講師が約束練習を指導した。

実技の最後に、軽米講師と柴田講師が自由練習を指導し、「面のみを打つ人」「抜き胴のみを打つ人」に分かれた攻防交代制の紹介をし、実践したところ、初心者参加者からは「攻めやすく、技が出しやすい」という意見が出た。

柴田講師が指導と評価について講義を行い、指導したことに対して評価をする、指導と評価の一体化が重要であるとし、無理のない評価基準を設定することで効果的な授業になると述べた。

閉講式では、軽米講師が講評を、中井秀人教諭が参加者を代表して講師に対する謝辞を述べ、寺内泰良石川県学校剣道連盟理事長が主管県挨拶を行い、網代講師が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。



新聞球打ちの様子



基本となる技の段階的指導